最小限に抑えると共に、ダム湖内での施工となるので、打設中に発生する汚濁が拡散しないように汚濁防止膜で周囲を取り囲み、スライム受ベッセルにて残土水を集積し、周囲への濁りの影響がないようにしています。尚、油資類は動植物に影響が無い自然分解性エコオイルを使用しました。

高さ約３０ｍの水中橋脚杭のブレスには、当社が開発したワンタッチ伸縮梁工法（特許取得済）が採用されました。通常工法では、ブレスの部材を一本ずつクレーンで吊りながら水中ダイバーが潜水し溶接にて取り付けており、非常に手間がかかり重労働で危険な作業となります。しかし、ワンタッチ伸縮梁工法は、陸上で設置するブレスを１式組み上げて設置位置へ吊込み溶接し取り付ける為、クレーンの使用含め、短時間の潜水で施工を完了させることができ、取付手間を最小限に抑えダイバーへの負担も少なく安全な工法です。

（（株）高知丸高　高野一郎）

ここにこんな人が

わたしの履歴書

岩盤削孔技術協会　事務局長　（日本基礎技術(株)技術本部副本部長）　岡　憲二郎

■　郷里・幼年時代・学生時代

岡山県笠岡市、カブトガニの繁殖地として有名な神ノ島で昭和二十六年に生まれ、今年で還暦を迎えます。十干十二支でいうと辛卯（かのとう）生まれ、もともと暦では茂（ぼう）という字が卯に変わったそうで、若葉が生い茂るということから成長発展を意味し、世の中は変化や競争が激しくなる年といわれています。そういえば、昭和二十六年は朝鮮戦争（１９５０～１９５３）でソウルが陥落し、トルーマン大統領によってマッカーサーが解任された年です。日本はこの戦争による特需で第２次世界大戦後の経済復興のスピードを加速させましたが、朝鮮半島は南北に分断されたままです。今年はまた辛卯、音読みでシンボウとなり、内憂外患の「辛抱」を強いられる年になるとの解釈もあります。要は、世の変化に流されることなく、自らが選び取った道を有意義なものにするため、一層努力精進に励む歳になったと前向きに考えています。

岡山で過ごしたのは小学校１年まで、その後は兵庫県神戸市で育ち、大学は京都に進学、農業土木工学を専攻しました。

■　社会に出て

昭和五十年に卒業し、大阪にある土木の会社に入社。５年間は港湾工事に従事し、その後は推進・セミシールド・シールド・山岳トンネル（在来）・ＮＡＴＭ・都市ＮＡＴＭ関連工事に携わってきました。平成７年の阪神淡路大震災以降は、主に耐震補強技術（マイクロパイル）や地盤改良技術（高圧噴射攪拌工法）の開発、削孔技術の高度化を進めてきました。現在は、日本基礎技術（株）技術本部で、「人と環境の共生をめざし建設基礎技術で豊かな社会創りに貢献する」ことを目指し、「誠実で信頼できる技術者（社員）づくり」、「現場と生の情報でつながっている組織づくり」、「競争に打ち勝つための施工技術の高度化」を進めています。

■　趣味・信条

趣味は「家庭菜園」と「健康ゴルフ」。特に、家庭菜園はスポーツ園芸と称して、鍬鎌のみで汗水流しながら、若干自虐的に２００㎡程度の畑作に熱中しています。しかしながら、昨年の夏の異常高温では熱中症寸前となりました。今年は、健康ゴルフに軸足を移し、池越えの無理せず、チョロ・グサでも慌てず騒がず、ＯＢでも泰然自若で、楽しく１００を目指す所存です。

信条は、父親（海軍兵学校六十五期生、終戦時は兵学校教官・海軍少佐・叙従六位）の影響もあり、「五分前精神」・「早飯・早糞芸の内」と「五省」が信条となっています。特に、五省（・至誠に悖るなかりしか・言行に恥ずるなかりしか・気力に欠くるなかりしか・努力に憾みなかりしか・無精に亘るなかりしか）は、口ずさむ度に感銘を覚えます。

■　今後の展望

当社は、ものづくりの施工技術を提供する専門業者として、建設基礎技術・独自施工技術の生産性向上や品質確保に重点を置いています。また、人と環境の共生をめざし、新しいことに挑戦したり、区切りをつけ心機一転頑張る年にしたいと思っています。

（岩盤削孔技術協会　岡　憲二郎）